

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200085		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム 育成会まごころ 1階		
所在地	野付郡別海町別海川上町20番地11		
自己評価作成日	令和4年12月21日	評価結果市町村受理日	令和5年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194200085-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム 育成会まごころは人材確保対策で、外国人1名の受入れを行っています。認知症基礎研修、介護初任者研修を終了しています。未就学児のいる子育て世代の採用も積極的に行っています。入居者様は外国人の職員や小さな子供との交流を楽しみにされています。入居者様とご家族との面会はリモート、窓際で行っています。職員はコロナ感染予防対策を行い感染者が出た場合の対策を話し合っています。

全事業所の職員がオンデマンド研修で同じことを学んでいます。合同管理者会議についてはzoomで行っていましたが、今年はコロナ感染予防対策をしながら集合で行いました。事業所間で情報交換を行いそれぞれの事業所で介護に活かしています。

内科、心療内科の訪問診療が行われており施設看護師と病院との連携が取れています。生活機能アセスメントを行うことで入居者様の運動機能維持、向上が見られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な新興住宅街の一画にあり、近隣に役場やキャンプ場、町立病院などがある恵まれた場所に立地している。敷地内に畑を有し収穫した新鮮な野菜を、職員は利用者の嗜好に配慮しながら季節に合った献立を月毎に作成し提供している。人材確保対策では外国人の受け入れや子育て世代の採用に積極的に取り組んでいる。事業所内は床暖房が設置され、冬期間も快適な生活が送れている。ウッドデッキで季節にあわせて日光浴や歓談の場所として利用している。若い職員が多く明るい雰囲気を出している。家族会との交流、月に一度の通信発行を通じて家族との良好なコミュニケーションを図っている。町内のグループホームとの関係も良く、収穫した野菜を貰ったり、ラインを通じての情報交換も行っている。将来、地域内の介護施設との協議会設置を目指し、介護力向上に繋げるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人1人実践できるように申し送り時に理念の唱話を行っています。現在はコロナで集合の申し送りは中止している。	職員一人ひとりが理念の内容を身近に感じ共有しながら支援への思いを深め、自己成長に繋がるよう努力している。			職員間による経験の違いを活かし、職員一同が共有できる「施設理念」を作成して、ケアの向上に繋げるよう期待したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、牛乳を週2回届けていただいています。	地元別海高校生によるインターンシップ受け入れの結果、当事業所に2名が就労しており、入居者から若い世代に関われたことを誇りにしている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナにより見学やインターンシップを中止しています。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催しサービス向上に努めています。現在は書面開催です。	2か月ごとの書面での運営推進会議を開催している。地域の行事展覧会、芸能発表、牛乳無料配付などの関りを継続し交流を図る事で事業所の実際を伝えている。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者と相談し協力をえています。	事業所内での課題を市町村担当者に相談し地域の介護施設と共に協力し解決するよう取り組んでいる。地域の介護事業所の連絡協議会の発足に向けて協力体制を築き設置を目指している。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オンデマンド研修を行っています。職員に冊子を配布し、柵や人感センサーについてMTGで話し合いケアマネとアセスメントを行っています。	身体拘束についての定期研修としてオンデマンド研修を実施している。職員は研修受講後にレポート提出を行い、考える力を養う努力をしている。世代間や経験年数の差を縮め、業務の優先順位を認識できるケアに取り組んでいる。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に虐待防止の資料を配布し虐待に注意を払い防止に努めています。					

グループホーム育成会まごころ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加していたが現在はコロナの為参加中々できてません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学をして頂き説明等を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望等は管理者やCM・R・職員が話を聞き努めています。	家族からの要望でコロナ感染予防をしながら面会方法を検討している。リモートや玄関先での面会など、状況に応じて対応している。遠方の家族ははがきを送付し意見を求めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	MTGや代表者との面談を通して聞いてもらう機会があります。	定期的に管理者と職員が個別に面談し意見や提案を聞く機会がある。職員会議で、運営に関する意見がある場合は事業所の代表者とともに協議し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況把握を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課表、研修受講状況での評価を行っています。個人面談による指導を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為交流会は中止しています。		

グループホーム育成会まごころ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安や困っている事に耳を傾け話を聞いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聞き不安を取り除くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る事・出来ない事の見極めをし個々に対応している。アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事や掃除等出来るところは行って頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が電話したいと言われた時はいつでも家族様とお話しています。また施設の方で相談が有る時にはご家族の意見を聞き支援に繋げています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室に出かける方も1人居ますが施設にて町内の美容室の方が来て頂きカットして頂いています。	コロナ禍での地域との関係継続支援が困難となっている。今後の感染状況を踏まえて以前のようにフラダンス、ボランティアによる大正琴の演奏、地元高校との収穫祭、祭り移動時の休憩所として関係性を継続していく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行や持病での体調不良を考えながら、入居者様同士が関わりをもてるように、注意し見守りを行っています。		

グループホーム育成会まごころ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援の必要や申し出があれば対応しますが、あまりありません。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に意向を確認しています。困難な場合はご家族に相談確認を行い検討しています。	普段は日常生活の会話で意向を聞くように努めている。利用者からの遺言書作成の際に思いや意向を把握したことがある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からお話を聞いたり、ご本人との会話の中からこれまでの暮らしの把握を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に目を通し申し送り等で現状把握している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月MTGやカンファレンスを行っている。	介護計画は定期的に見直し、モニタリングは毎月のミーティングやカンファレンスで意見を集約しチームで作成する。ケア内容は細かくプライオリティ(重要度)の高いケアについては目標を継続している。作成した計画書は家族へ説明し承認を得て実践している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	服薬管理表や個人記録により状況を共有し介護計画に生かせるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子・歩行器の貸し出しをしている、急な受診も職員が対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でボランティアの訪問を見合わせています。感染予防を行いながら、コーラスの鑑賞は行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは内科・診療内科訪問診療して頂き適切な医療が受けられるように支援している。	利用者が希望する医療機関へ定期受診できるように家族の同行で対応している。協力医による内科、心療内科医の訪問診療が行われている。地域医療が不足しているが適切な医療が受けられるよう支援している。		

グループホーム育成会まごころ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時には生活状況報告書を作成提出しています。体調の変化あった時には看護師の指示を貰い支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に看護サマリーを提出しています。家族・病院と連携し関係作りを努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し、緊急時の対応について取り決め職員と共有しています。	入居時に「重度化や終末期の指針」について本人、家族に文章で説明し理解を得ている。入居後の心身の状況や状態変化時、緊急時対応なども文章で協議し同意を得ている。情報は職員間で共有しケアに繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生対応マニュアルを作成して実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力的体制を築いている	年2回避難訓練を行う。	年2回の避難訓練を実施している。現在、地域の協力を得た訓練はコロナ感染予防対策として自粛している。災害時用の備蓄として非常食とポータブルストーブを準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない声掛けを行い対応しています。	一人ひとりの人格を尊重しトイレの際の声かけなどにはそばに寄ってそっと声をかけるなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を通し本人の希望を察するようし、自己決定できるように声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで過ごしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの服は本人が選ぶが決めれない時は職員と一緒にしています。		

グループホーム育成会まごころ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の方が食器洗いや皮むきをお手伝い下さいます。	以前はバイキングなど実施して利用者が好きな物を選ぶことができる楽しみがあったが、コロナ感染予防のため現在は中止している。その中でも毎食後の飲み物はメニューを充実させて利用者が自由に選べるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時の体調、義歯の状態をに合わせ食事形態や水分量を考え記録し、栄養管理する為の栄養スクリーニングを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行いブラシやコップの洗浄をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により排泄リズムを把握し、訴えない方には時間をみて誘導します。	排泄チェック表を活用して排泄の自立支援をサポートしています。些細な排泄サインも見逃さないよう注意深く利用者に寄り添っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を作り排便コントロールが出来るようにしています。便秘薬が処方されて方は定期的な排便があるように飲んで頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人好みの温度にして時間もそれぞれ違うのでその方に合った入浴をして頂いています。	定期的に楽しく入浴ができるように個別の希望を聞いて対応している。入浴拒否の利用者には曜日や時間を変更したり、「明日は病院受診なのできれいにしましょう」などと声をかけ工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後休息をとる方も居ます。夜間良眠できるように日中の長い時間の睡眠は避けるように声かけを行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を活用し服薬管理時に名前と朝・昼・夕の確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	他フロアとの交流はコロナで中止。入居者様にはゲームや交流を行い支援しています。		

グループホーム育成会まごころ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・散歩・お祭り見学・紅葉見学はコロナで中止しています。花火大会は行っています。	コロナ禍による外出が大きく制限されている。このような中、花火大会を行い入居者から大変喜ばれている。今後、職員、家族とどのような対応が必要か検討中である。	コロナ禍における外出、家族面談対応を行政での市民対応を参考にルール化し家族が納得の上、協力してもらえよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務で金庫に保管しています。本人の希望あれば代行して品物の購入支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用が出来ます。コロナで面会はリモートか窓際で行ってます。手紙やはがきでやり取りしている方もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の飾り物を作成し飾り付けしています。	戸外の気温や季節に合わせて共有空間の室温、湿度を調整しています。季節の飾り物を飾るなど季節感を取り入れて居心地よく過ごせるよう工夫しています。事業所見学希望者には人数制限や大声での会話を制限するなど配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方とお話したりテレビを見たりリビングで過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持参され、飾り物や写真を飾られています。	居心地良く生活できるように仏壇など本人の希望するものは優先して持ち込んでいます。転倒に繋がる危険性がある場合は家具の配置や数を減らすなど家族と相談し対応している。看取り期には自室の他共用空間で過ごすなどの配慮もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を付けトイレや廊下には手すりを設置安全に生活できるように支援しています。		